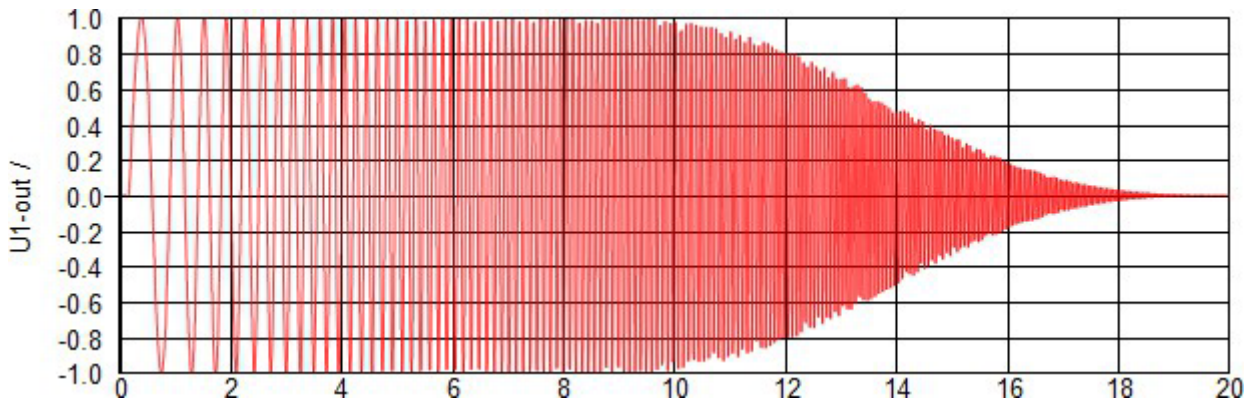


## バージョン9.4の新機能



新バージョンはSIMetrixまたはSIMetrix/SIMPLISの保守契約の一部として提供されています。保守契約をお持ちの方は、プログラムの Help | Check for Update. . | Check Update Now のチェックボックスにチェックをいれると、Ver9.40のユーザー名とパスワードが入手できます。

[最新バージョンをダウンロードしてください](#)

[営業に連絡](#)

[SIMetrix/SIMPLIS Elementsを試してみてください](#)

## Pythonプログラミング言語との統合

SIMetrixおよびSIMetrix/SIMPLISは、Pythonプログラミング言語でプログラムできるようになりました。回路図エディタ、波形ビューア データ処理システムはすべて専用のオブジェクト指向クラスやメソッドを使ってアクセス可能です。SIMetrixとSIMPLISの両方 同じ機能を使ってシミュレーターを起動することも可能で、測定データも容易にアクセス可能です。

新たに内蔵されたPythonテキストエディタが搭載されており、構文ハイライト、構文チェック、メソッド補完機能、ポップアップドキュメントなどが含まれています。。

Pythonは別途インストールする必要があります。現在、バージョン3.12、3.13、3.14がサポートされています。

[すべてのバージョンで利用可能です。](#)

[詳細情報](#)

# SIMPLIS シミュレーターの新機能

## POP以前の過渡解析

オプションで、周期的操作点 (POP) 解析のサブタスクとしてPre-POP過渡解析が追加されました。Pre-POP過渡解析が有効化されると、POP解析で最初に行われるサブタスクとなります。Pre-POP過渡解析は、指定された停止時間か、特定のトリガーゲートの論理出力が0から1への遷移を認識した場合のいずれかに達した時点で停止します。Pre-POP過渡解析が終了した後、次に「POP起動前のNサイクル」のシミュレーションが実行され、その後にコアPOPプロセスが行われます。Pre-POP過渡解析は、多数のエネルギー貯蔵素子や逐次論理回路の大規模な初期化を必要とする複雑なシステムに有効であり、コアPOPプロセスは、システムが合理的な開始点に落ち着いた後にのみ開始されます。

さらに、Pre-POP過渡解析が有効の場合、POP解析は「最大周期」の自動リセットをサポートします。パラメータは、POPトリガーがPre-POP過渡解析中に観測したスイッチング期間に基づいています。

[すべてのバージョンで提供](#)

## LISNの最新情報

SIMPLIS — LISNデバイスは、CISPR16.1規格で定義されたEMI検出器と同様なノイズ測定を行うことができます。さらに、以前利用可能だった全伝導EMI電圧波形のFFTに対して、ユーザーはピークや準ピーク、および/または平均EMI測定値も表示できるようになりました。シミュレーション終了後に計算され、LISNの全伝導EMI電圧波形をEMI検出器に通した場合と同様の結果を示すこれらの曲線は、FFTと同じグラフ上に重ねて表示されるので、さまざまなEMI規格で定義されているノイズ制限と容易に比較できます。

。

[すべてのバージョンで提供](#)

## 関連項目

[バージョン9.40のリリースノート](#)